

所属・資格 教育学科・教授

申請者氏名 下司 晶

研究課題		戦後教育学における「近代批判」の検討
報告の概要	研究目的 および 研究概要	戦後教育学における「近代批判」の系譜を検討する。戦後教育学において「近代」は、西洋において発展した歴史的現実であるとともに、文教政策に対抗するための理念化された準拠枠であった。しかし近代は必ずしも理想としてばかり着目されてきたわけではなく、近代への批判も同時に転回した。称揚と批判という近代像が戦後の教育学においてどのように生じたのかを検討する。研究成果は、教育哲学会、教育思想史学会等で発表する。
	研究の結果	戦後教育学における「近代批判」の系譜について、「教育実践」、「教員養成」、「古典」、「学習」の観点から検討した。「教育実践」および「教員養成」については、かつての教育学（教育哲学）は特権的な位置から教育を客観的に把握できるとされていたのに対し、近代批判および言語論的転回以後の哲学を経て、実践に自らが組み込まれているようになっていることを指摘した。「古典」については、どのような思想が「教育思想」と位置づけられてきたのかについて、教員養成と関連付けて検討した。「学習」については、新教育で試みられた学習館の転換が、現代ではアクティブラーニングの形で復活していると考え、その異動をあきらかにした。
	研究の考察・反省	今回は戦後教育学における「近代批判」の系譜について検討し、一定の成果を上げることができた。しかし今後は、戦前期の教育学にまで遡って同様の検討をする必要があると感じられた。また、戦後教育学では周辺視されてきたフロイトと精神分析の思想についても、検討を深めることが必要であることが実感された。
研究発表 学会名 発表テーマ 年月日/場所	研究発表 学会名 発表テーマ 年月日/場所	※この欄は、本報告書提出時点で判明している事項についてご記入ください。 著書 森田尚人・松浦良充編『いま、教育と教育学を問い直す——教育哲学は何を究明し、何を展望するか』東信堂、2019年2月  論文等 下司 晶「「学び続ける教員」を教育学で育てる——中央教育審議会答申「これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について」（2015）の批判的検討」『教育学雑誌』54号、2017年12月、pp.17-34. 相馬伸一・下司 晶・椋木香子・高宮正貴・岸本智典・眞壁宏幹「〈教育思想史〉の誕生(2)——ペスタロッチと英米教育思想史」『近代教育フォーラム』27号、2018年9月、pp.118-124.  学会発表等 企画・司会：相馬伸一・下司 晶、報告：相馬伸一・綾井桜子、河野桃子「〈教育思想史〉の誕生(3)——フランスにおける成立とドイツにおける展開」教育思想史学会第28回大会コロキウム2、2018年9月8日、大阪大学吹田キャンパス 企画：小野文生・下司 晶・生澤繁樹・井谷信彦、司会：小野文生・下司 晶、報告：大塚類、
研究成果物 テーマ 誌名 巻・号 発行年月日 発行所・者	研究成果物 テーマ 誌名 巻・号 発行年月日 発行所・者	

	<p>杉田浩崇、奥井遼「教育哲学の境界を問う——教育哲学は何を射程に含めうるか」教育哲学学会第 61 回大会ランチタイムセッション、2018 年 10 月 6 日、山梨学院短期大学 企画・司会：牧野智和、報告：井上義和・小方直幸・濱中義隆、指定討論：下司 晶「アクティブラーニングの教育社会学」日本教育社会学会第 70 回大会 課題研究Ⅲ、2018 年 11 月 6 日、東京大学本郷キャンパス</p>
--	---